

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月20日

事業所名 楽らく療養通所 プルーンベリーハウス

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7				感染対策においてスペースの確保、カーテン等を使用している	定められたスペースが確保できている
	2 職員の配置数は適切である	7				児童指導員、看護師の加配加算を取得、手厚い体制で質の向上に努めている。勤務形態を記録し、適正運営に努めている	適切な職員の配置数を満たしている
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7				フンフロアの開けた環境で、見渡しやすく目が行き届く環境である。バリアフリー化、トイレの手すり等あり、設備は整っている。	適切にバリアフリー化されている
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7				使用した物品やベッド周囲は使用後に消毒、清掃している。個々に応じて環境を工夫している	継続して取り組みを行う
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1			研修として実施し、周知、実践に努めている	より明確にPDCAサイクルを業務改善に取り入れたことがわかるよう業務内容の精査を行う
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				得られた意見を会議で共有し、業務改善につなげている。取り組みが継続できている	本取り組みを公開し、保護者には広報誌やホームページへの案内を行い周知に努めている
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				事業所内の意見を取りまとめ、業務改善につなげている。取り組みが継続できている	本取り組みを公開し、保護者には広報誌やホームページへの案内を行い周知に努めている
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		2	感染症対策のため、外部と接触を行っていない。事業所内で業務改善を行っている	状況を見て第三者評価を導入する必要がある
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7				メンタルヘルス等職員の資質向上のための研修を1月に1度以上の頻度で開催できている	制度上必須な研修が実施できている。取り組みを継続する
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7				保護者と連絡帳や電話等でやり取りをし、状態変化に迅速かつ適切に対応できている。	必要時にアセスメントをし情報を共有する。また、状態の変化によってはアセスメントを更新していく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		1	契約時に当事業所のアセスメントシートを使用し、家族が記入したものを使用している。	継続していく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			1	児童発達支援ガイドラインに沿って計画を立案し、計画に沿った支援を行っている	継続して取り組みを行う
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			1	児童発達支援ガイドラインに沿って計画を立案し、計画に沿った支援を行っている	継続して取り組みを行う
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1			職員から意見を集め、立案時、モニタリング会議で検討し、意見を汲んで立案することができる	多く意見が出るように、意見を集める期間を長くする
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2			全職員から意見を集め、立案時、モニタリング会議で検討し、固定化しないよう留意している	本人の課題に合った活動プログラムを固定化しないよう計画に盛り込む
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	1			周囲、環境からの刺激や、職員との交流による刺激を受けられるように計画を作成している	個別に応じた活動を状況により集団での活動も取り組んでいる。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1			毎日の朝礼で、本日の支援内容の確認、業務内容の打ち合わせを行い、各職員は役割や流れの確認ができている。業務中に変更があればリーダーを中心に適宜対応している。	継続して取り組みを行う
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3			職員間で話し合いの共有をしている	継続して取り組みを行う
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				毎回支援内容、時間について記録し、連絡ノートを使用して当日のうちに家族と共有し、意見を交換ができている	継続して取り組みを行う
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				確認表を作成、共有し、計画的にモニタリングを行っている。家族と連絡を取り、必要時にはモニタリングを実施する。	継続して取り組みを行う

関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			管理者、児童発達支援管理責任者が必ず参加している	継続して取り組みを行う	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			適宜連携を行うことができてい	継続して取り組みを行う	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			適宜連携を行うことができてい	継続して取り組みを行う	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7			適宜連携を行うことができてい	継続して取り組みを行う	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			相談支援員の方等を等して情報の共有を行っている	継続して取り組みを行う	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			必要時に学校の教員の方に来て頂き直接引き継ぎを行っている。依頼時は文書での情報共有も行っている	速やかに情報共有ができるよう、手順を明確化する	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2			適宜連携を行うことができてい	継続して取り組みを行う
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7			コロナが第五類に移行したが感染症は減っており外部との交流はない。	状況を見て交流、意見交換の場を設ける必要がある
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	6			コロナが第五類に移行したが感染症は減っており外部との交流はない。	状況を見て交流、意見交換の場を設ける必要がある
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		1		専用の連絡帳を使い、利用日毎に情報共有と意見交換を行っている。計画立案時にも現状や達成度についての意見を聴取している	継続して取り組みを行う
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1		1	個別に支援内容、支援方法を伝え、共有することができてい	継続して取り組みを行う

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約時に書面で順に説明し、理解と同意が得られている。わかりやすいように重要事項説明書は両面1枚にまとめている	継続して取り組みを行う
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			ガイドライン、重要事項説明書を説明し、計画に対して同意を得ることができている	継続して取り組みを行う
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			利用日毎に必ず保護者と直接意見交換を行っている。不安や意見等があった場合は個別に時間をとって聴取し、解決できている。	継続して取り組みを行う
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	5		コロナが第五類に移行したが感染症は減っており開催はできていない	状況を見て保護者同士の交流を促進する交流、意見交換の場を設ける必要がある
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			適宜、苦情対応フローチャートに沿って対応を行っている。	継続して取り組みを行う
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			契約時に連絡体制について同意を得ており、広報誌を年二回作成して活動内容の周知に努めている。行事予定は随時個別に連絡を行っている。	継続して取り組みを行う
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			個人情報は営業時間外は鍵付きのロッカーに保管し、事業所外の持ち出しを禁止している。また職員は得た情報を守るよう努めている	継続して取り組みを行う
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			保護者と協力し、知識面、環境面からサポートを行い、チームで意思を汲み取る能力を向上させられるよう努めている。	意思決定支援研修の受講を検討する
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1		コロナが第五類に移行したが感染症は減っており外部との交流はない。	広報誌を配布する等地域に周知していく必要がある	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7			緊急時対応についてはマニュアルを作成し、重要事項説明書にも記載している。防犯、感染対策マニュアルを作成し、周知するよう努めている	継続して取り組みを行う
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			年二回の防災訓練、年一回の防災研修を実施している。またBCP委員会により、準備、周知を行っている	継続して取り組みを行う
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	7			事前に情報の共有ができている。非常時の対応はマニュアル化されており、同意を得ている	継続して取り組みを行う
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	1	適切な対応ができている	継続して取り組みを行う
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			事例の共有と検討ができている。定例会議において職員間で共有と検討を行っている。	継続して取り組みを行う
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			今年度も防止委員会より既に事業所内研修が実施されており、今後も継続して啓発を続けていく	継続して取り組みを行う
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			今年度も身体拘束虐待防止委員会より既に事業所内研修が実施されており、今後も継続して啓発を続けていく。また、重要事項説明書に記載をし、同意を得ている	継続して取り組みを行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。